

第4回鉄道運賃・料金制度のあり方に関する小委員会 説明資料

2022年3月11日

一般社団法人 日本経済団体連合会
産業政策本部

1. 交通機能の多様化に向けて

- 人々のライフスタイルや働き方が多様化するなか、移動ニーズも多様化。
- 交通政策では、多様な移動ニーズを満たせるよう、移動の選択肢・自由度を増やすとともに、人々の行動変容を促し、他の政策領域における目標達成にもつなげることが期待される。

デジタル技術による 交通サービスの革新

多様な交通手段や料金制度を元に、
利用者が最適な移動サービスを選択する

〔必要な取組例〕

- 運賃・料金設定の柔軟化
- MaaS事業者の整備
- オンデマンド交通の拡大等

人々の行動変容の促進

〔例〕

- ピークシフト促進による、公共交通の混雑緩和の実現
- 環境にやさしい交通手段の選択等

2. 運賃・料金設定に関する当会の考え方

- ✓ 従前から、公共交通機関の混雑解消を通じた、より快適な移動を実現する手段の一つとして、鉄道等におけるダイナミックプライシングを含めた、需要に応じた柔軟な料金・運賃設定が可能となる制度整備の検討を提言。
- ✓ 感染症の拡大やデジタル化の進展などによる、経済・社会の変化・変容を踏まえると、時間帯別運賃の導入も含めて、柔軟化に向けた制度の見直し検討が、より急務に。
- ✓ 事業者が創意工夫を発揮できる制度の設計を期待。将来的には、MaaSを意識した制度設計なども必要。

ご参考：提言における関連記載

提言「Society 5.0時代の東京」（2019年9月）

Ⅲ3-3-2-ア．交通の全体最適化

国および東京都は、交通関連の各種データを最大限に活用しながら交通インフラ整備や交通マネジメントを推進すべきである。

必要に応じて、鉄道・バス、有料道路等において、ダイナミックプライシングを含め、需要に応じた柔軟な料金設定が可能となるような制度整備も検討に値する。

提言「次期社会資本整備重点計画・交通政策基本計画に対する意見」

(2020年11月)

Ⅳ3-2-2-ウ．運賃・料金設定の柔軟化

公共交通機関に関しては、サブスクリプションやダイナミックプライシングの導入・拡大も含め、運賃・料金設定の柔軟化に向けた制度の見直しを検討すべきである。

大都市圏の通勤交通に関しても、感染症対策の観点から混雑緩和の必要性が一層高まっており、時間帯別運賃の導入も検討に値する。